

【2025 年度岡本ゼミによるウガンダでの海外フィールドワークの成果報告】

政策学部岡本由美子ゼミは 2011 年度以降、ゼミ活動の中心に海外フィールドワーク（FW）を据えて来ました。2020 年度から 23 年度はオンライン上での海外 FW でしか実施できませんでしたが、今年度は、2024 年度に続いて、現地で海外 FW を実施しました。2025 年度 10 月 25 日（土）の午後 3 時から午後 5 時 20 分まで、同志社大学今出川キャンパス良心館 404 号室で報告会を開催致しましたので、以下、その概要をまとめます。

冒頭、岡本より、ゼミのテーマ、特徴、及び、今年度のゼミ活動の概要を説明した後、まずは、ウガンダに関連する 4 つの班（日本の ODA プロジェクトの一つである北部ウガンダ農家生計向上プロジェクト、略して、NUFLIP 班、コーヒー班、エコツーリズム班、日本の NPO・ソーシャルベンチャー班）からそれぞれ、15 分ずつ、発表を行いました（今年度の海外 FW のスケジュールに関しては、文書の最後の補足欄をご覧ください）。

最初の報告は 3 年ゼミ生の NUFLIP 班からでした。本年度は 2 つの農家グループを訪問しました。今年度は昨年度までとは異なり、現在、直接、NUFLIP から協力を得ていない農家グループのみを訪問しました。一つは、NUFLIP フェーズ I ですすでに直接的な協力関係が終わっている農家グループ、もう一つは、農業普及員のみが NUFLIP の技術研修

（NUFLIP Way）を受講され、その普及員が直接、その技術・知識を伝授している農家グループ（つまり、農家グループ自体は JICA から何ら、直接、支援を受けていない）へ質問を行いました。1 つ目の農家グループですが、フェーズ I で習得した NUFLIP Way がしっかりと農家さんに身に付き、それをさらに自ら独自に発展させていることがわかりました。ODA の持続可能な効果を確認することができました。また、学生が提案した乾燥果物（ドライマンゴ）やドライ干し芋にも非常に興味を示して下さり、農家さんの前向きな姿勢に我々は感動を覚えました。

2 つ目の農家グループでは、政府役人である農業普及員を通して、アチョリ地域では、野菜栽培と言えば、NUFLIP Way が広く、農家さんに普及し始めたことが確認できました。ODA の持続可能性、そして、インパクトの大きさを今回ほど、感じたことはありません。ラジオを通して NUFLIP Way をアチョリ全域に普及させる案もあると伺いました。そうすれば、全国に広まる可能性もありますよね。今後、さらに期待が持てますね。

次は、3 年ゼミ生のコーヒー班からの発表でした。毎年、訪問している有機コーヒー小規模農家組合の組織としての新たな問題・課題（Association から Cooperative Union への組織的な変革）についてインタビューを通して詳しく調べるとともに、昨年度の先輩から引き継いで、女性コーヒー農家さんによるハンディクラフト生産と販路の更なる拡大に取り組みました。

組織改編は、税制面や金融面での優遇が受けられることもあり、メリットが大きい反面、毎年行わなくてはならない認証取得や、EU の新しい規制に対応する必要性もあり、

完成には今少し、時間が要する可能性があることを見出しました。やはり、物事にはメリットとデメリット、共に存在することを常に頭に入れておく必要があることを改めて認識した次第です。

一方、女性コーヒー農家さんのハンディクラフト生産と販売の拡大は順調に이었습니다。その理由は、今年は発注書を明確に作成して事前にお伝えしていたため、意思疎通に齟齬がなかったこと、かつ、事前に、奈良県の雑貨屋さんにも直接足を運んで交渉をしていたため、生産と販路の拡大がスムーズにいった事だ、と思われます。今年初めて、学園祭以外でハンディクラフト販売の可能性を探ったのだが、コーヒー班の一つの大きな成果といえると思います。

3年ゼミ生3番目の発表は、エコツーリズム班です。今年は、ラムサール条約に指定されNHKでも放送されたマバンバ湿地を管理運営する団体(MWETA)について、しっかりと事前調査をしていたため、現地では何をすれば一番効果が上がりそうか、ある程度、予想をつけることができたことが、非常によかったと思います。未来まで環境を守るため、子供を対象に、地域住民でもある小学校の先生も巻き込んで、ごみマップ作成プロジェクトを提案し、MWETAからも小学校の先生からも、高い評価を頂けたことはよかったかと思えます。ただし、小学校が休みだったため、実際にプロジェクトを実施できなかったことはとても残念でした。

今年度は、ウガンダで最大規模を誇るマーチソン・フォールズ国立公園でも、エコツーリズムの問題・課題の整理を行いました。ウガンダ政府が同国の今後5か年の産業の3本柱の一つに位置付けるツーリズム。国立公園はその要の一つでもあるため、我々は、その問題・課題も掘り下げてみました。国が管理運営するため、マバンバ湿地とは異なりハードウェア面では色々と整備はされているものの、地域住民側が生活や動物が引き起こす被害の保障が十分になされず、国立公園側(政府側)と住民は対立がそれなりに続いていることもわかりました。また、政府が重要視している3つの産業の一つである石油産業の開発のため、国立公園の生態系が崩れ初めていることもまた、現地を訪問して理解できました。経済と環境の両立は持続可能な開発のためには必要不可欠ですが、途上国ではその達成が極めて難しいことが国立公園での調査で明らかとなりました。

最後に、日本のNGO・ソーシャルベンチャー班による発表でした。ここでは、ウガンダで活動する代表的な日本の民間団体・企業についてプレゼンを行いました。一つは、北部ウガンダで平和構築を目指す、認定NPO法人テラ・ルネッサンス、もう一つは、日本のソーシャルベンチャー企業である、Wassha Uganda Ltd.について、です。共に、ウガンダで成功している代表的な日本の民間団体・企業であります。他の3つの発表団体や地域と比較して、途中、活動に空白がある、または、今回、訪問が初めてな団体・企業さんであるため、この班の活動は、詳細なインタビューを通して、その成功要因を明らかにすることでありました。つまり、具体的な提案は行えませんでした。

認定NPO法人テラ・ルネッサンスの成功要因は多々あるでしょうが、今回、小川代表

へのインタビューを通して、「小さな成功を積み重ねていくと、人は次第に自信を取り戻し、過去の悲惨な経験を乗り越えて自立に繋がる」、ということを見出した事が重要な一因だったのではないかと我々のゼミは結論付けました。含蓄が深い、素晴らしい知見であると皆、感じ入りました。また、インタビューの過程で、元子供兵への偏見・差別は世代を超えて続く傾向になり、我々は、新たな重要な問題・課題を見つけるに至りました。さらに、元子供兵へのインタビューを通して、「日本人の学生さん（若者）には、このウガンダ北部での悲惨な経験をより多くの人々に伝えて欲しい」、と願っていることもわかりました。平和構築のために我々一人一人が出来ることも多いことを改めて知ることができた瞬間でした。

Wassha Uganda Ltd.については、もう少し、調査が必要ではありますが、日本の子会社ではあるものの、現地はもはや日本人は常駐せず、すべて、ウガンダ人の手でオペレーションができていることが、ものすごいと感じた次第です。IT を駆使して、電力をサービスとして貧しい人々にも届けるビジネスモデルは、お見事としかいいようがありません。しかし、出発前、もう少し日本で調査をすべきであったと反省する次第です。

2025 年度は 4 名の国際協力や国際ビジネスの専門家の方々にコメントをお願いしました。JICA ウガンダ事務所次長の山下英志氏、株式会社 JIN 代表取締役の大野康雄氏、同会社事業部長の山下里愛氏、そして、岡本ゼミ 16 期生卒業生で現在、双日株式会社勤務の日野有紗氏の 4 名でした。また、今年度は、同志社大学他学部の 4 年生や、以前、青年海外協力隊員としてアフリカで国際協力活動に従事された経験がある方にもご参加いただき、閉会後に書面でコメントをいただくこともできました。ありがたいことです。

大変好意的なコメントを頂いた一方、様々な改善点の提案もいただきました。紙面上、すべてを執筆することはできませんが、いくつか、ご紹介させていただきます。例えば、NUFLIP 班ですと、NUFLIP Way の確立は、それより以前から、現場で何十年にもわたって足掻き苦しんだ末に、ようやく実現できたものであり、1 日で成功できるものでは決してなかった、という、国際協力の現場の生の声を聞くことができ、大変にためになりました。Wassha Uganda Ltd.が成功するに至るまで、どのような困難なことがあったのか、また、どのような思いでこのようなビジネスを思いつくに至ったのか、もう少し、日本サイドも含めて調査する必要があるのではないかとのことでした。また、海外でのプロジェクトを成功に導くためには、現地でどれだけ優秀な人材を確保できるのか、そして、周りのコミュニティとどのように協力できるのか（うまく付き合うことができるのか）、によるのではないかと、といったようなご意見も頂戴でき、コメンテーターの方々からも、我々は多くの事を学ぶことができました。

本分野の専門家に多数お集まりいただいて、ゼミ生が行ってきた活動成果を報告でき、かつ、それに対する忌憚のないコメントをいただけたこと、本当に良かったと思います。今年度も無事、成果報告会を終了できましたことを、報告申し上げます。

（文責：政策学部教員 岡本由美子）

付録資料

2 2025年度ウガンダ海外FWの概要 (2025年8月28日～9月9日まで実施)				
日付	曜日	地域	ウガンダにおける訪問機関	協力・ビジネス 形態
8月29日	金	首都カンバラ	JICAウガンダ事務所 Wassha Uganda Ltd.	ODA ソーシャルベンチャー
8/30	土	ワキノ	マバンバ湿地エコツーリズム協会(MWETA)	Trade (CBO)
9/1	月	ムバレ	ブフンボ有機小規模農家組合(BOCU)	Fairtrade
9/3～5	水～金	グル	北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト(NUFLIP) 認定NPO法人テラルネッサンス・グル訓練所	ODA NPO
9/6～7	土～日	ウガンダ北西部	マーチソン・フォールズ国立公園	Trade (State)
9/8～9	月	首都カンバラ	マケレレ大学開発学部、在ウガンダ日本大使館	国際交流